

研究主題 「自他ともに大切にし、心豊かな生徒の育成」

～「考え、議論する道徳科」の実践を通して～

越谷市立中央中学校

1 研究主題の設定理由

本校では「自他ともに大切にできる生徒」を学校教育目標に掲げ、日々教育活動に取り組んでいる。また、昨年度からは「自立・貢献」を合言葉とし、自ら考え、行動できる生徒の自主性、他者と心豊かに関わりながら協働していく姿勢をより一層重視して、全職員で日々の教育活動にあたっている。自他ともに大切にできる生徒を育成していく上で、全教育活動を通じて行われる道徳教育は重要な役割の一つであると考える。

道徳教育の中で要となるのが、道徳の授業である。「特別の教科 道徳」として平成31年4月から全面実施となり、本校でも道徳の授業の充実を図ってきた。全職員で共通理解を図りながら進めることはもちろん、職員研修での教材分析会、それをもとにした授業公開は本校の特色の一つである。また、越谷市の小中一貫教育のキーワードである「わくわく感のある授業づくり」を道徳の授業にも取り入れてきた。しかし、道徳の授業においては、限られた時間の中で、担任のみで教材分析を行うことも多く、多様な指導方法が実践できていない現状もある。一人一人の生徒が、自己の生き方を見つめ、多様な価値観や考えを認め合い、よりよい生き方についての考えを深め、教師と生徒が共に考え、議論する道徳の授業を目指していきたい。そのために、教師が多様な指導方法を身につけ、主体的・対話的で深い学びのある道徳の授業の実践を積み重ねていくことは、本校の教育活動において大きな役割を果たすと考える。

以上のことから、本研究主題を設定した。

2 研究の仮説

多様な指導方法を効果的に取り入れ、これまで以上に自己を見つめ、多様な価値観や考えが存在することを互いに認め合う「考え、議論する」道徳の授業の充実を図れば、自他ともに大切にできる生徒の育成につながるだろう。

3 研究の経過

時期	内 容
4月	・校内研修（道徳科の共通理解、講師の方による示範授業） 示範授業 幸手市教育委員会教育長 山西 実 様 指導助言 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 芳賀一行先生 越谷市教育委員会指導課教育指導担当主任指導主事 風間俊樹先生
8月	・校内研修（教材分析会） 指導助言 越谷市教育委員会指導課教育指導担当主任指導主事 風間俊樹先生
9月	・全校道徳公開授業（土曜日の学校公開日に実施）
10月	・埼玉県道徳教育研究推進モデル校研究発表会 指導助言 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 芳賀一行先生 講演 「道徳教育推進教師を中心とした道徳教育と道徳科の推進・充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 堀田竜次先生
通年	・学年教員で組織的に行う道徳の授業 ・評価の共通理解、課題の検討 ・掲示物作成、教材分析、相互授業参観 ・毎月の道徳通信の発行

4 研究の内容

(1) 多様な指導方法の取組

①生徒同士の対話、議論の深まりをつくる学習展開の工夫

中央中学校では、「議論する」部分である話合いの工夫を取り入れながら授業を行っている。自分の考えを声に出して表現することが苦手な生徒、書くことが苦手な生徒にとっては、多様な表現方法が必要となる。言葉による表現以外に、ネームカードの活用や役割演技、ICTの活用等、様々な方法を取り入れ、考えを表現することが苦手な生徒でも気負いなく様々な考えを表出できるようにしている。



また、話合いをするときには、ねらいとする道徳的価値に迫るテーマを設定し、単にプリントに書いた意見を確認するだけの場にならないように留意している。

②授業のねらいに応じた学習形態の工夫

中央中学校では、基本的に「コの字」で授業を実施している。しかし、教材や授業のねらい、生徒の実態に応じて、話合いが深まる学習形態の工夫を行っている。



「コの字」で授業を行うことで、お互いの顔を見て話合いができるメリットがあるが、全体の場で自分の考えを発表することが苦手な生徒がいることや、教師が机間指導をしづらいことなどのデメリットもある。

一方、「T4（机をTの字にし、4人組を作る）」は、「コの字」よりも発言しやすくなることで、自由な話合いのもと、自分の考えを整理しながら話したり、友達の考えを聞き、質問や確認をしながら考えを広げたり、深めたりすることができる。

教材によって、どのような学習形態が効果的かを考え、実践していくことで、深まりのある授業づくりが期待できる。

③ICTの効果的な活用

ICTを活用し、アンケート結果や資料の提示等の場面で、学習支援アプリの機能を活用した。学習支援アプリの思考ツールを用いたり、提出箱を設けたりすることで、生徒自身が自らの考えを表現すること、意見の変容を視覚的に捉えることができるようになった。



また、学習支援アプリを活用することで、瞬時にクラス全員の意見を共有することができ、出た意見をもとに生徒間の意見をつなぎ合わせながら、話合いを深めることができるようになった。

④中心的な発問の改善

教師による「意図をもった」発問は、生徒の心を揺さぶり、問題意識や多様な感じ方を引き出し、物事を広い視野から多面的・多角的に考えるために重要である。

授業では、㉗人物の気持ちや行為の理由などの場면을問う発問、㉘主人公の生き方などの人物を問う発問、㉙教材の意味や持ち味を問う発問、㉚主題となる価値や内容を問う発問を授業に織り込み、主人公に自分を重ねたり、客観的に分析したり、様々な立ち位置から発問をするように展開を組んでいる。

⑤全学年統一の道徳コーナーの設置

学級の掲示物『心の充電機』を作成し、全クラスに掲示している。内容項目の4つの視点ごとに色分けしたカードに話し合ったことや生徒の振り返りなどを記入し、授業が終わるごとに貼り付けている。生徒が掲示物を見ながら、道徳の授業での学びを振り返ったり、自分と友達の考え方を比較したりできるようにしている。



(2) 全教職員の道徳教育の充実

①道徳資料室の充実

道徳資料室を設け、各学年の教材の場面絵をラミネートしたものを作成し、年間を通して、誰でも使用できるようにした。作成した場面絵は教材ごとにボックスに入れ、学年ごとに分けて保管している。

また、ボックスの中には、道徳担当が作成したもの以外にも、先生方が授業で使用した短冊やワークシート、板書写真、指導案等も入っており、全教職員が共有できるようになっている。実際に、各授業で教材・教具を使用することで、授業者の教具作成の負担が減り、教材研究により時間をかけることができるようになった。

道徳資料室を設置してから4年が経つが、今後も改良を重ねながら活用していくことで、授業の質の向上に努め、生徒の道徳性の育成を目指していきたい。



②学年教員で組織的に行う道徳の授業と、相互授業参観の活発化

令和5年度より、学年教員で組織的に行う道徳の授業計画を立て、学年の担当職員が1つの教材について複数の学級で授業を実施している。

本校の学年教員で組織的に行う道徳の授業では、1つの教材を2名の教師が担当し、授業改善を行いながら全学級で授業を実施することができる。また、学級担任が自分の学級の授業を参観することが可能となり、違う角度から生徒の新たな一面を発見することができるため、評価の改善にもつなげることができている。

③「彩の国の道徳」「越谷市道徳教育郷土教材集」の活用

埼玉県や越谷市にゆかりのある教材を使用することで「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に限らず、身近な地域での出来事を通して、より自分との関わりで考えられるように努めている。



④各教科の特質に応じた道徳教育

各教科等の特質に応じて、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に関連して美術科では地域の伝統工芸品を扱った作品制作を行ったり、「勤労」「社会参画、公共の精神」に関連して特別活動や総合的な学習の時間では奉仕活動を行ったりしている。



(3) 校内研修の充実

①道徳教育における共通理解を図る取組

本校では月に一度、道徳教育推進教師による道徳通信が、教職員向けに発行されている。発行月に実施する予定の教材を主軸として、授業の活性化や評価のポイントを一覧表にして掲載している。担当学年はもちろん、他学年の授業計画や教材の内容についても知ることができ、道徳教育における共通理解への一翼を担ってい

る。

②講話、教材吟味、示範授業などの充実した校内研修

本校では春と夏に講師を招いての研修を実施し、教師自らが生徒と共に自らの道徳性を養い、よりよく生きようという姿勢を大切にし、日々の授業の中で愛情を持って生徒への指導に臨めるよう研鑽を積んでいる。

今年度は4月に幸手市教育委員会教育長である山西実先生をお招きし、示範授業をしていただいた。この示範授業では、「考え、議論する道徳科」を展開していく工夫を随所に拝見することができた。

③全校による公開授業の実施

毎年9月の学校公開では、全学級にて道徳科の公開授業を行っている。これに向けて、8月の校内研修にて学年職員が協働して教材分析を行い、指導案の作成に当たっている。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

【令和6年1月実施の「規律ある態度」達成目標の調査結果】

項目		1年	2年	3年
○けじめのある生活ができる	①登校時刻	97.4%	96.5%	95.9%
	②授業開始時刻	99.5%	97.0%	99.4%
	③靴そろえ	96.3%	96.5%	96.5%
	④整理整頓	85.7%	84.9%	90.0%
○礼儀正しく人と接することができる	⑤あいさつ	90.5%	88.4%	96.5%
	⑥返事	94.1%	93.9%	97.6%
	⑦ていねいな言葉づかい	94.7%	93.0%	97.6%
	⑧やさしい言葉づかい	93.7%	93.4%	95.9%
○約束やきまりを守る ことができる	⑨学習準備	96.8%	95.5%	97.6%
	⑩話を聞き発表をする	92.6%	88.9%	92.4%
	⑪集団の場での態度	97.3%	96.0%	97.6%
	⑫掃除・美化活動	92.6%	88.9%	93.5%

多くの項目で90%を超える結果となった。特に「①②時間を守ること」「③靴そろえ」「⑨学習準備」「⑪集団の場での態度」についてはどの学年も95%を超えた。「④整理整頓」「⑩話を聞き発表する」「⑫清掃・美化活動」については令和5年4月の調査と比較し、平均して10%以上の伸びが見られた。道徳の授業や毎日の教育活動を通しての生徒の成長が大きく表れる結果となった。

(2) 課題

- ・生徒たちの多様な価値観を認めるため、教材分析において、予想される生徒の反応を細かく検討する必要がある。
- ・生徒の多様な考えを取り入れたり、思考を深めたりする手掛かりなるような、板書を生かす工夫について研究を進めていく。
- ・組織的な道徳の授業の形式を、教師の授業力の向上のほかに、いかに評価に生かすか研究を進めていく。
- ・教材の中の「心が揺れる場面」では一人一人の生き方に目をむけ、あらゆる意見に耳を傾けていき、「葛藤」に対して多様な意見を引き出す工夫をしていく。
- ・校内研修や教材分析会を積極的に取り入れていき、どのような指導方法がより深く「考え、議論する」ことができるのか授業改善に努めていく。